

く(男女比1:6.5), 28例に何らかの甲状腺疾患があり, エコー所見では両葉腫大(12例)の慢性甲状腺炎が多く, その他腺腫(9例)囊腫(6例), 乳頭腺癌(1例)があり, この癌は慢性甲状腺炎との合併例である。頭書患者には予想以上に甲状腺疾患が多いため, 従来の耳鼻咽喉検査に甲状腺エコーを追加することが望ましいと考えられた。

57. 腹腔動脈造影にて証明された胃動静脈奇形の1例

斉藤一郎, 宮城英慈, 鈴木良一
平井康夫, 柏村 真, 山下道隆
大島仁士 (松戸市立)
高井 満 (同外科)
浅沼勝美 (同病理)
林 良明 (沼津市立)

症例は, 77歳女性。近医にて高血圧治療中貧血を指摘され, 胃内視鏡検査施行。胃角部大彎に潰瘍を指摘され, 抗潰瘍薬と鉄剤とを内服。その後も, 貧血の改善がみられず当院紹介入院となった。血色素7.1g/dl と貧血を認めた。胃内視鏡検査にて, 胃角部大彎に毛細管の集簇様の発赤斑を認めた。腹腔動脈造影にて, 胃同部に, 毛細管網とそこへの輸出入動静脈を認めた。胃動静脈奇形と診断し, 手術施行。手術標本では, 粘膜下層に, 迂曲・分岐した動脈の数の増加, その周囲の静脈の拡張が認められた。

58. 千葉市立病院における食道静脈瘤硬化療法の成績について

大久保裕司, 深沢 毅, 小関秀旭
板谷喬起 (千葉市立)

当院において昭和61.4より, 昭和63.6までに食道・胃静脈瘤を有する患者18名に計38回内視鏡的硬化療法を施行した。約2年間で再出血は2例と少なく, 内視鏡的にも静脈瘤の改善が確認された。重篤な合併症もなく, 静脈瘤を有する患者には, 積極的に内視鏡的硬化療法を施行する必要があると思われた。

59. 化学療法を施行した胃悪性リンパ腫の内視鏡像

曲 舜華, 平井康夫, 鈴木良一
宮城英慈, 柏村 真, 永井孝一
大島仁士 (松戸市立)

4例の胃病変を伴った悪性リンパ腫に, 化学療法を施行し, 内視鏡像の変化について検討した。4例の肉眼形態は表層型1例, 潰瘍型2例, 隆起型1例であった。化

学療法の効果は著明改善2例, 一部改善1例, 不変1例であった。改善がみられた3例では, 腫瘍の消失または著明な縮小, 白苔の消失, 瘢痕化がみられ, 胃悪性リンパ腫は化学療法により比較的容易に形態変化をきたすので, 内視鏡像の検討は治療効果の判定に重要と思われる。

61. プロスタグランディン E₁ 大量静注療法が有効であった重症B型肝炎の1例

新保早苗, 西村美樹, 小方信二
秋元敏佑, 松本一暁(成田日赤)

症例は53歳男性。全身倦怠感と尿の濃染を主訴に昭和63年8月15日当科入院。入院時 GOT 2000IU/l, GPT 2980IU/l, T-Bil 3.6mg/dl。キャリアー発症のB型肝炎と考えられた。GOT GPT は低下したが, Bil は上昇, Alb, chE は著減, プロトロンビン時間も40%台に延長を示した。GI 療法は無効。プロスタグランディン E₁ 1日250 μ g の大量静注を行ったところ, 自覚症状の改善, プロトロンビン時間の短縮, Bil の低下をみ, 有効であった。

62. 甲状腺機能低下症がアミノ酸投与により回復した吸収不良症候群の1例

徳山芳治, 板谷喬起(千葉市立)
太枝 徹, 西川哲男, 田村 泰
吉田 尚 (千大)

蛋白の消化障害に基づき, non-thyroidal illness の1例を経験した。アミノ酸製剤の点滴及び経口投与により各種栄養指標の改善と甲状腺機能の著明な改善が認められた。アミノ酸製剤経口投与において, フェニールアラニン, チロシンを制限すると, 各種栄養指標及び甲状腺機能の悪化を認めたが, 両アミノ酸の補充により著明に改善した。以上により両アミノ酸は, この症例の甲状腺機能正常化にとって必須であることが判明した。

63. 真性多血症に続発した急性白血病の1例

五十嵐忠彦, 伊藤国明(国立柏)

症例は, 70歳女性。59歳の時, 脾腫, 多血症を指摘され入院。真性多血症と診断されブスルファンの内服治療(1248mg)。11年の経過後, '88年4月汎血球減少症の傾向となり6月には末梢血中に単球様幼若細胞が出現。白血病細胞の性格はPOX 陽性でエステラーゼ二重染色も陽性であった。急性骨髄単球性白血病を続発したと診断した。